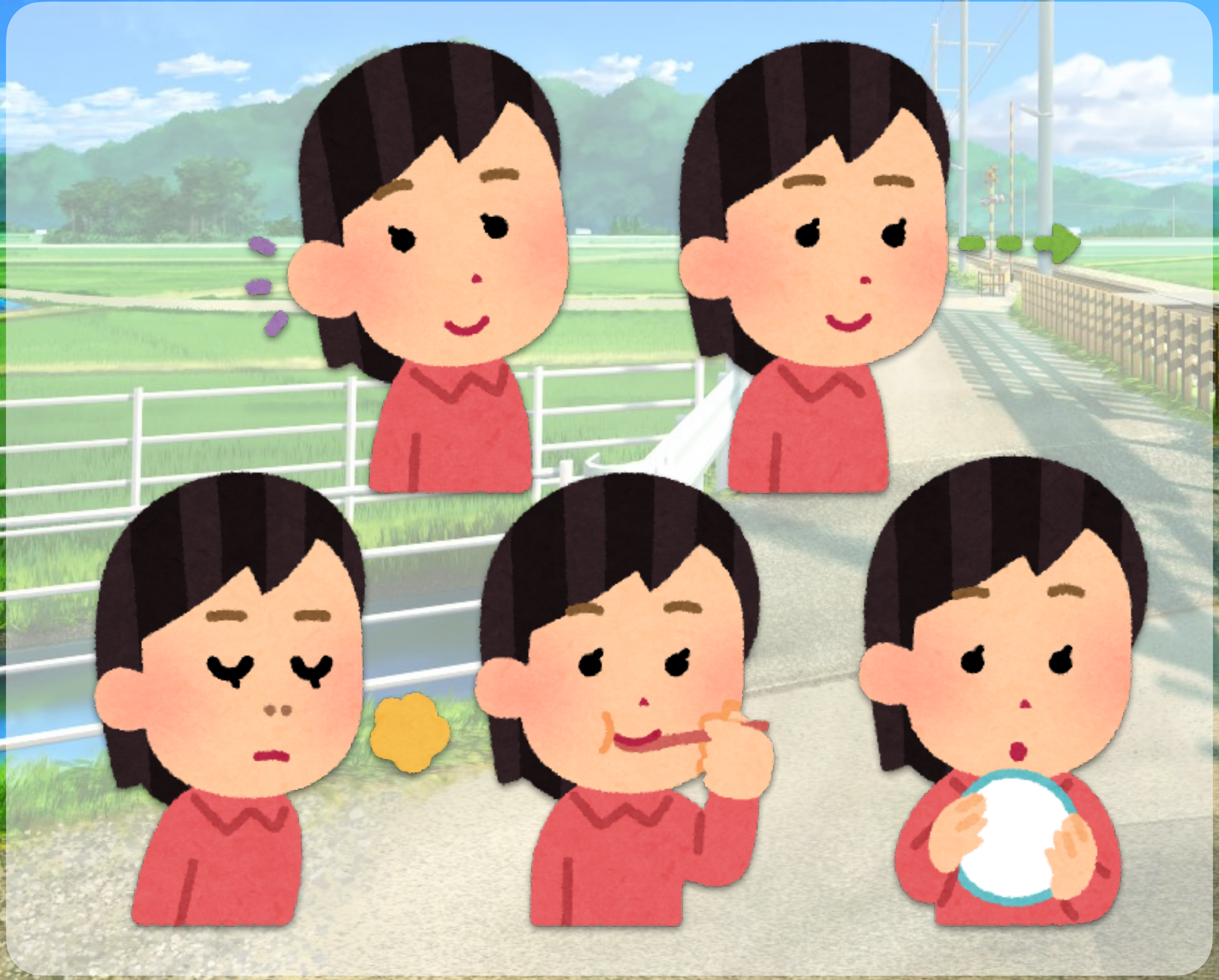
品質工学
官能評価
ダメ？

官能評価とは
人間の感覚(視覚･聴覚･味覚･嗅覚･触覚など)を用いて
品質などを評価する方法だ

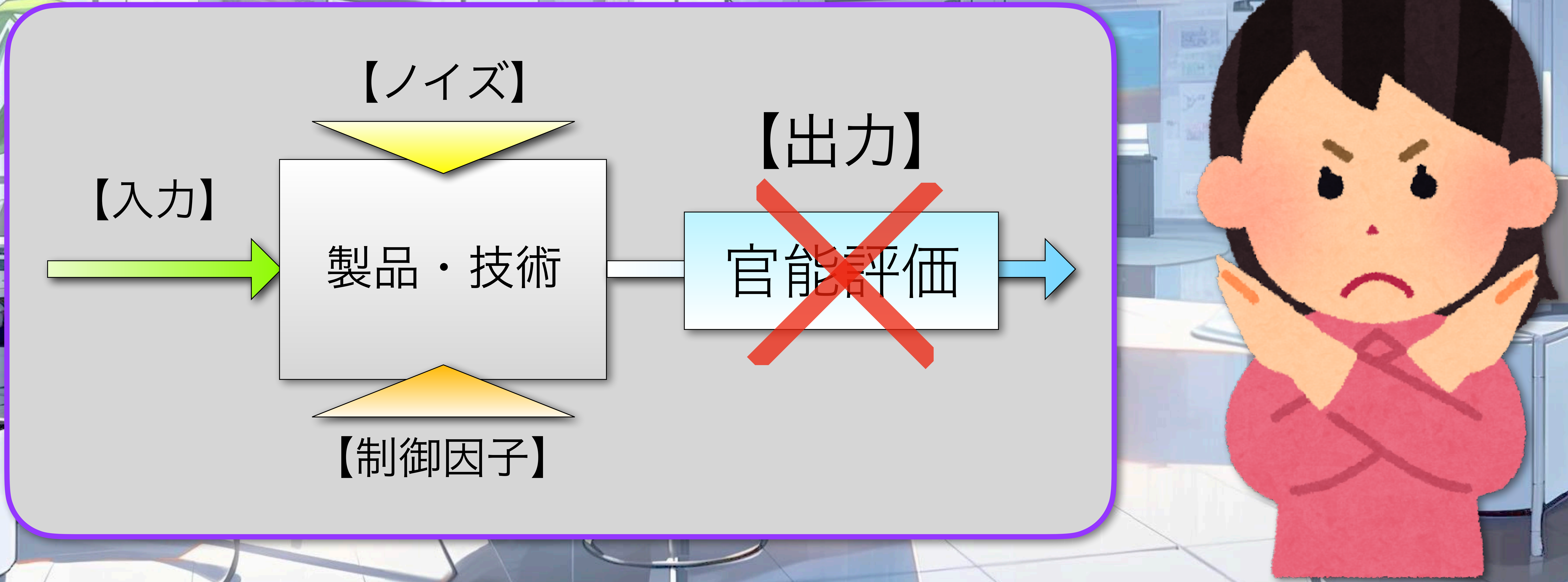
官能評価とは

人間の感覚(視覚･聴覚･味覚･嗅覚･触覚など)を用いて

品質などを評価する方法だ

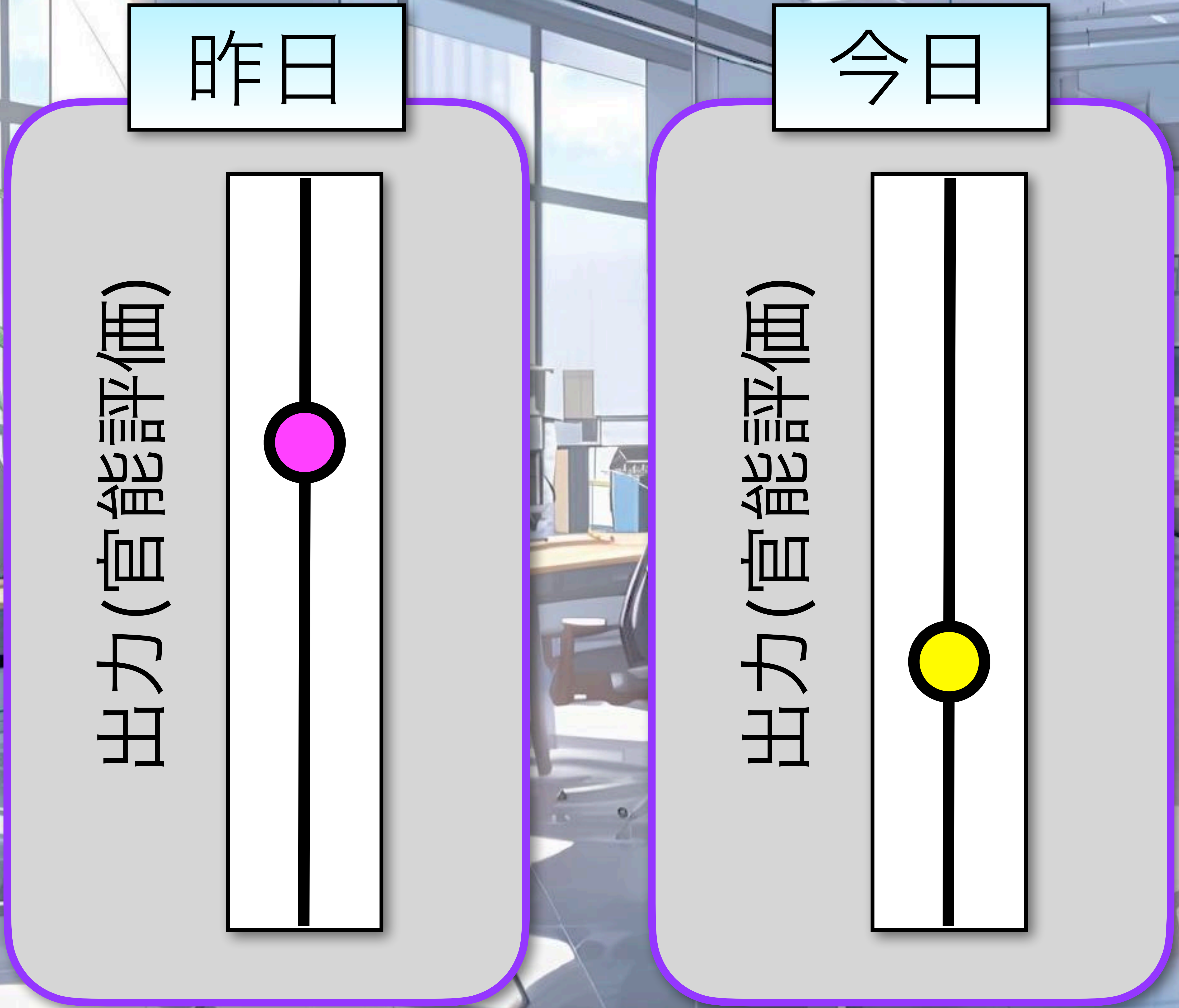


品質工学では
「官能評価を出力とした最適化」は推奨されていない

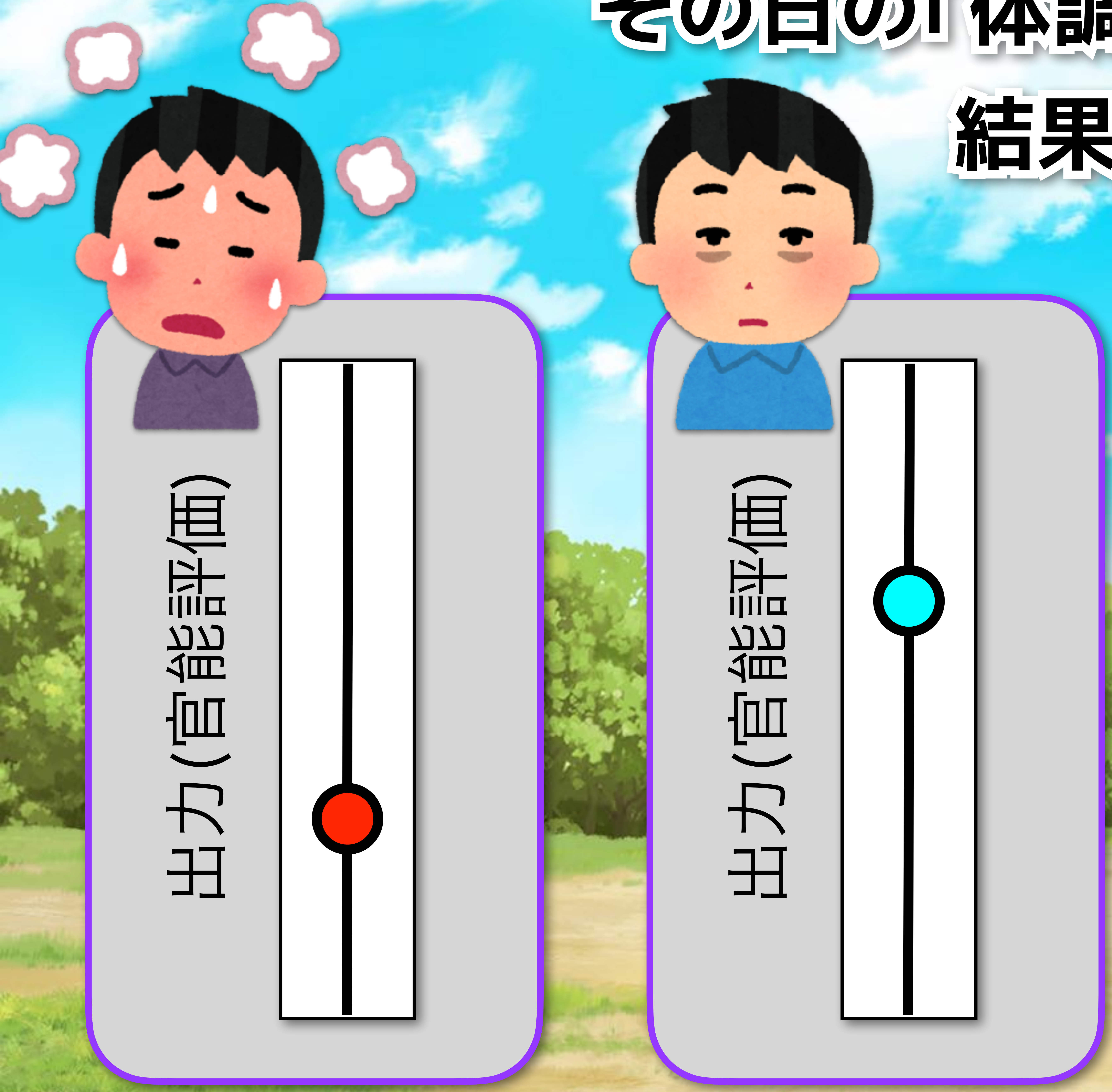


その理由は、「繰り返しのバラツキが大きい」からだ

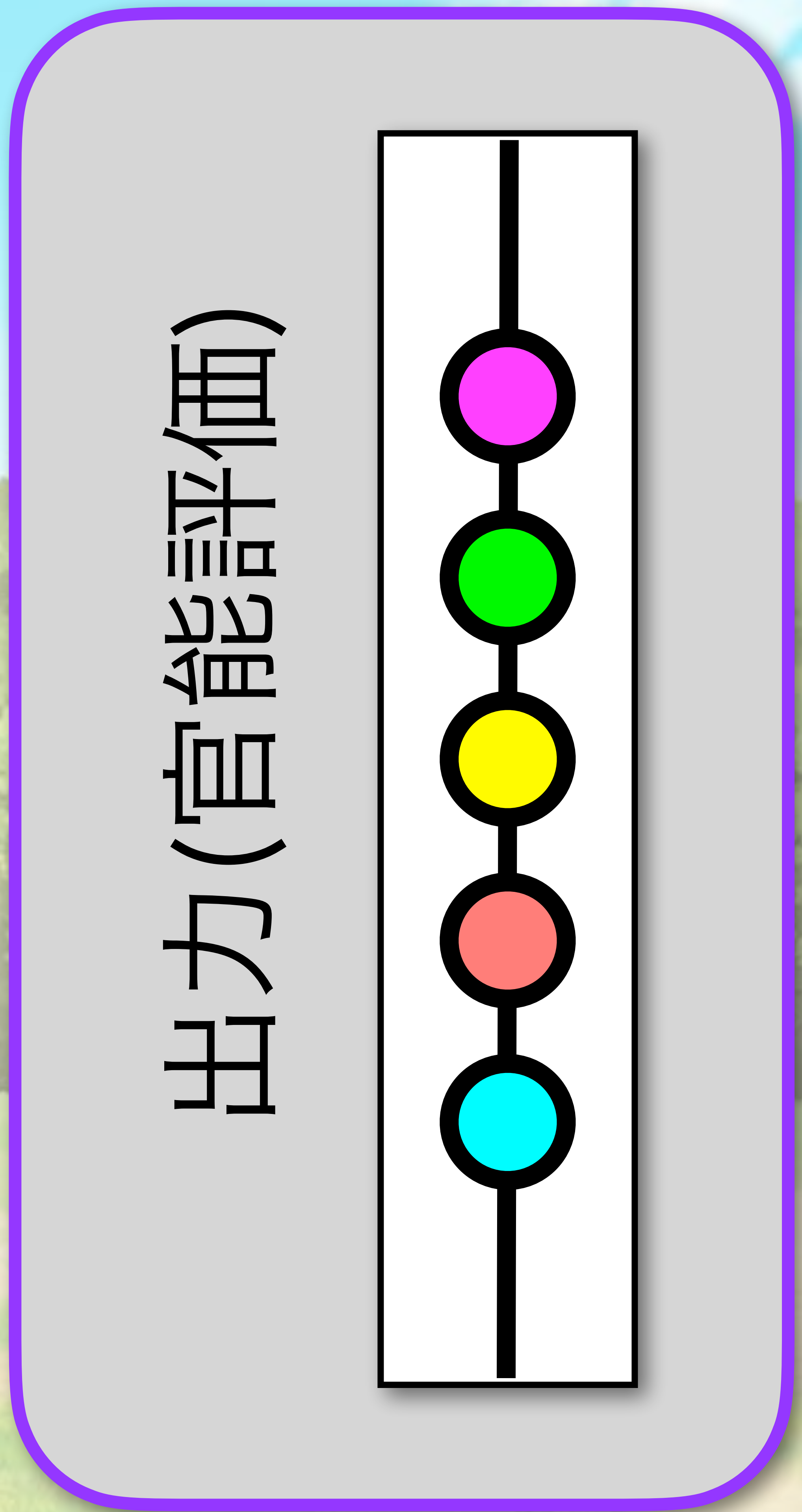
「昨日評価した結果」と「今日評価した結果」が
微妙に異なったり



その日の「体調」や「感情の起伏」によって結果が左右されたりするからだ



繰り返しのバラツキが大きいと、再現性が悪くなり最適条件が求まらないのだ



繰り返しのバラツキ：大

再現性：悪

最適条件が求まらない

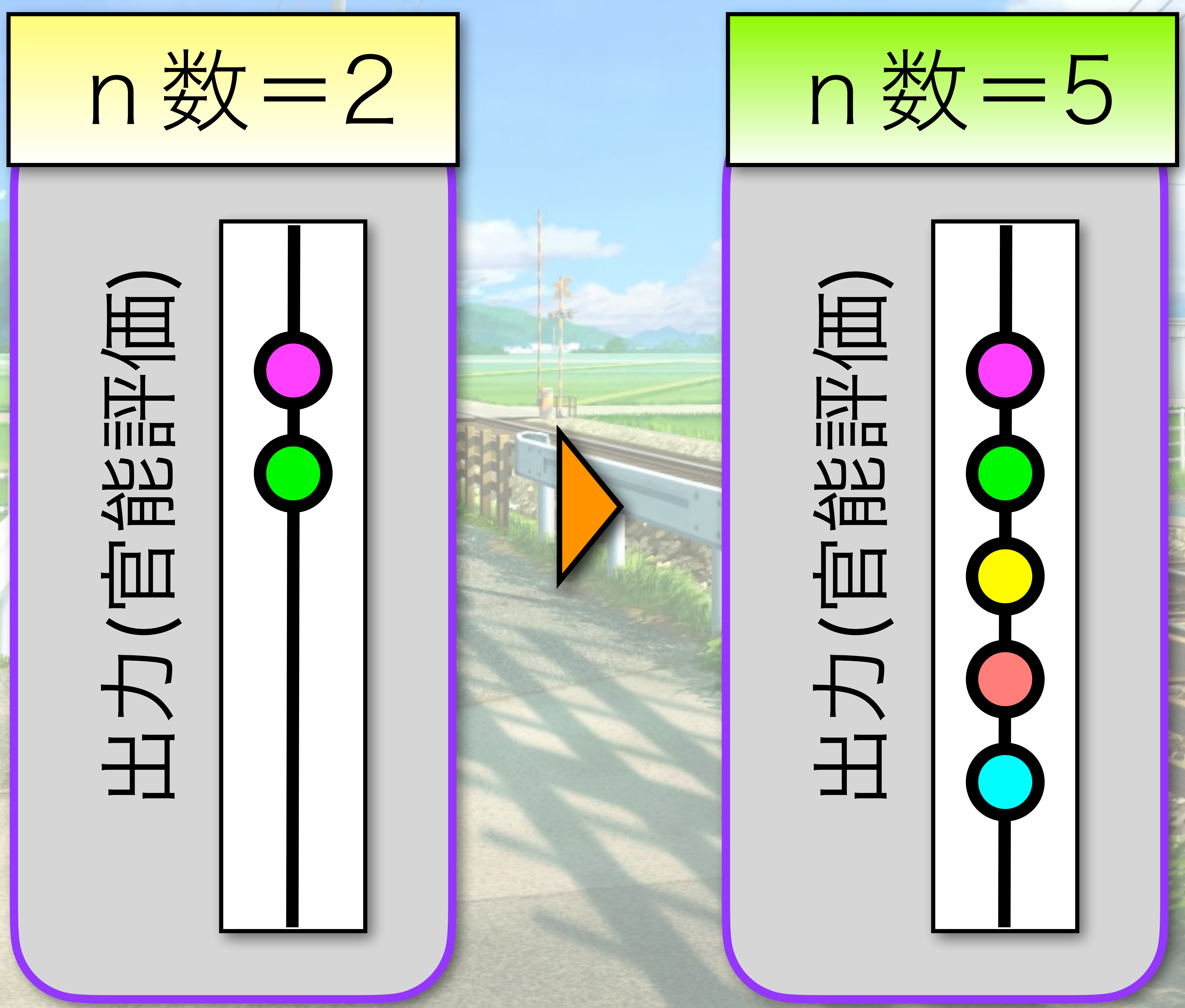
官能評価ではなく、測定器で定量化できる
（=繰り返しのバラツキが小さくなる）ような
評価指標を見つけることが大切だ

しかし、官能評価以外の評価指標が
どうしても見つからない場合もある

そんな時は、最終手段として、官能評価で最適化しよう

※全く開発が進まないよりは、遥かにマシだからだ！

ただし、その際には
n数(繰り返し数)を多めにして実験をしよう



n数(繰り返し数)を多めにすれば、再現性は高くなる

まとめます

品質工学を賢く活用して、業務で成果を出そう

官能評価

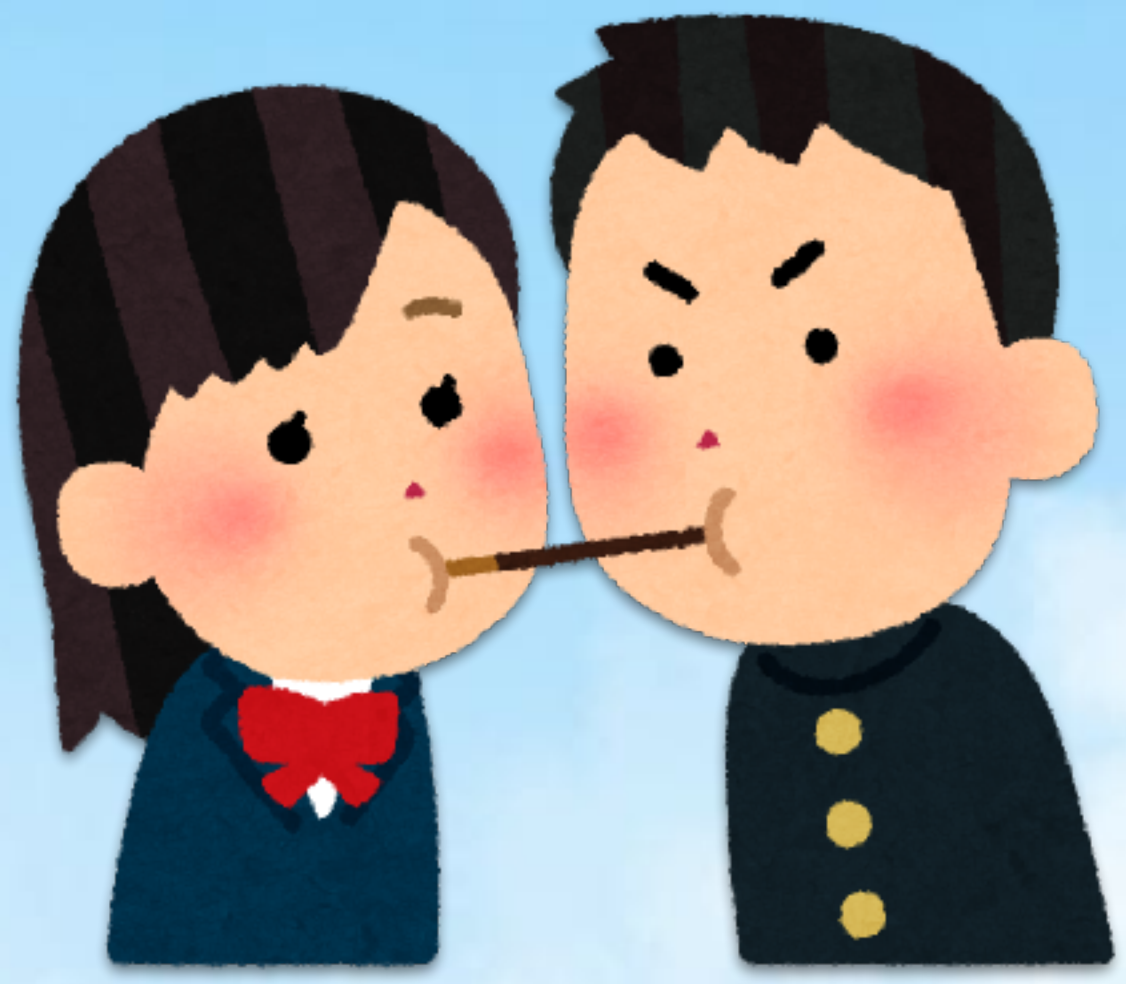
測定器評価

＋ 品質工学 ＝ 成果

いかがでしたか？

この動画が
品質工学で成果を出すきっかけになってくれれば
私は嬉しいです。

有限会社増田技術事務所（公式チャンネル）



マスダギジヒシジアシミ!

Ende